

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500233		
法人名	有限会社 イマージュ		
事業所名	グループホーム 夢 (夢ユニット)		
所在地	余市郡余市町黒川町19丁目13番地2		
自己評価作成日	平成29年12月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172500233-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172500233-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシエ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成30年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の意向を取り入れた、ユニット合同で行う月例行事や外出支援等を実施しています。職員となじみの関係を築けるよう、コミュニケーションを多くとるように心がけ、入居者が孤立することのないような心がけをしています。  
小旅行やブドウ狩り等、季節を感じることができるような行事の企画をしたり、運営推進会議やクリスマス会等で、地域住民や近隣の関係機関との交流の機会を設け、地域とともに生活していけるような支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年目を迎えた事業所は、開設時からの職員も勤務しており、職員の定着率が高く、長い間生活を共にした利用者との信頼関係が結ばれています。安心できる馴染みの関係の中、利用者職員との笑顔や笑い声が絶えない毎日を送っています。地域住民及び近隣に開設している他法人のグループホームとは運営推進会議や避難訓練、夏祭りでの交流など、友好的関係を築いています。事業所は理念の実現に向け、独自の介護記録様式を活用して本人らしい生活を送るための支援を見出せるように詳細に記録し、安定した良質のケアサービスの提供を目指しています。職員はケアの目的を意識して、利用者の持てる力を発揮できるよう、利用者の認知症状の緩和や意欲に繋がっています。家族との関係も良好で、夏祭りや食事を一緒に楽しみながら、利用者の様子を見てもらうと共に、広報誌や近況報告で更に詳しく暮らしぶりを伝え、安心と信頼につなげています。今年度から家族アンケートを実施し、寄せられた要望は、運営、行事、食事、レク、衛生などの各委員会で検討しています。職員は、アイデアを活かしてケアサービスの向上を図り、家族の要望に応えています。職員は、毎日のレクリエーション活動、毎月の外出行事、保育園児との交流など企画し、社会との繋がりを絶やさず、利用者の楽しみとメリハリのある暮らしを支えています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します	
項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の申し送りで理念を読み上げ、実践につなげている。	地域密着を謳った理念を作成しています。職員は申し送り時に理念を唱和し、理念がケアに反映されているか、カンファレンス時に確認しています。パンフレットや広報誌、事業所の共有スペースに理念を掲げ啓発に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所と行事の中で交流を図ったり、夏祭りには近隣の方に来ていただいている。	地域住民との交流の場として、事業所主催の夏祭りや運動会に招かれたり、事業所のクリスマスには園児の遊技が披露されるなど、利用者の暮らしに彩りを添えています。近隣に家が建てられた時は挨拶に行き、地域との連携に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方に参加をしてもらい、事業報告をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方から意見や要望を聞き、全体会議や各委員会でも検討している。	運営推進会議は年6回開催しています。運営状況の報告に加え工夫を行っています。医療関係者による出前健康講座や、避難訓練の実施や音楽療法の体験など、魅力ある会議を企画し、運営推進会議への関心と参加者確保に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月運営状況報告書を提出したり、運営推進会議への出席依頼や広報誌の配布をしている。	各種報告書はメールで提出し、事業所広報誌は担当窓口に届けています。課題が生じた場合は相談や助言を受けています。運営推進会議にも町職員や地域包括支援センター職員の参加があり、事業所の現状を伝え情報を共有しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止虐待委員会で身体拘束がないか確認をしたり、マニュアルを作成して職員が見やすい場所に置いている。	マニュアルを整備し、常に確認できるようにしています。職員は、資料やマニュアルを基に、新人研修や内部研修等で正しい理解に繋げています。毎月開催している身体拘束廃止虐待委員会でも、身体拘束につながるケアを行っていないか確認するなど、内容を掘り下げて職員間で話し合っています。玄関は夜間施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月身体拘束虐待廃止委員会で虐待がないか確認をしたり、マニュアルを作成して職員が見やすい場所に置いている。虐待についての内部研修を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などあれば参加し、必要時には活用していくようにする。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い、理解や納得を得ている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを実施して、運営推進会議で報告したり、運営推進会議での意見は全体会議で周知、検討をしている。	今年度初めて家族アンケートを実施し、意見や要望の把握を行っています。家族の思いを職員間で共有し、運営に反映しています。来訪時や電話の際にも家族の要望を聴取しています。家族には毎月、写真添付の状況報告と2か月毎の広報誌や運営推進会議事録等も郵送し、利用者の健康状態や暮らしぶりを伝えています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や各委員会、カンファレンスにて、職員の意見を聞く機会を設けている。	管理者は、日々の申し送りや会議等で職員の意見や提案から、ケアサービスの向上や就業環境の整備に努めています。職員は、運営、広報、食事、衛生、レク等の各委員会に所属して、持てる力を発揮し、事業所の質向上に取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努め	全体会議にて意見を聞いたり、個別に話したりして、職場環境の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できる環境を作り、研修後研修参加報告を全体会議にて行うようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	余市ケアマネ連絡協議会や余市グループホーム連絡協議会、北海道認知症グループホーム協議会の会員であり、研修などあれば参加し、交流を図っている。			
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と事前面談を行っており、不安や要望などを聞き、安心の確保に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配事や要望など傾聴し、パンフレットなどで説明をして、不安がないように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援が何かを見極め、各関係機関と連携しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な方には食器洗いや玄関掃除などの手伝いを、コミュニケーションをとりながら一緒に行ってもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の写真を使った近況報告を作成し、家族に送付している。何か相談があれば家族と一緒に対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、可能な限りなじみの人に会ったり、場所へ行ったりしている。	職員は、家族や友人の来訪を歓迎しています。受診時に、利用者の自宅付近を車で通るなど希望を叶えています。家族の支援を得ながら、自宅訪問や墓参り、理・美容室に同行するなど、これまでの社会的繋がりが途切れないよう支えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することがないように職員が関り、入居者同士も関わりあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族から相談などあれば対応している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念を念頭に置き、入居者とコミュニケーションをとりながら、希望や意向を把握するようにしている。困難な時はカンファレンスを開き、本人本位に検討している。	職員は出来るだけ利用者のそばに寄り添い、会話の中から本当の気持ちを聞き逃さずに、思いの把握に努めています。情報はケース記録に残し、職員間で共有を図り、思いの実現に向けて話し合い検討しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者とコミュニケーションをとって情報を得たり、個人ファイルの生活歴や生活状況を明記したもので把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録、入居者からの訴えなどにて把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を考慮し、話し合いや見直しが行われている。主治医や看護師とも協力、相談をしている。	定期見直しや状況変化時に、利用者、家族の要望を聴取し、主治医や看護師の所見を参考に、介護計画を作成しています。本人らしい生活ができるよう、介護記録は、事業所独自の様式を使用しています。本人の変化、反応、職員の対応など項目ごとに丁寧な記録を徹底し毎月のカンファレンスにて支援の方向性を検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアプランマップで実施状況を把握し、カンファレンスをして見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の希望などがあれば対応したり、本人の特技やできることを行ってもらうなどの支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設や消防署との連携等、地域の協力を得られるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じたかかりつけ医を決め、不調などの時は相談や受診をしている。	入居時に、利用者が希望する医療機関に受診できるよう家族と相談し対応しています。ほとんどの利用者は、2週に1度の往診対応の協力医をかかりつけ医とし、24時間の連携体制がとられています。入居前からのかかりつけ医への受診は、町外は家族対応で、町内は職員対応で支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師に情報を伝え、相談などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の生活状況、本人のADLや性格などを情報提供している。また、入院中も本人の状況に応じて連携を取り、家族とも相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化する前にも、異変があったら家族へ報告をしている。日常生活や検査結果も報告し、家族の意向を確認している。	入居時に重度化並びに看取りの指針を利用者、家族に説明し同意を得ています。状況が変化した場合に、再度、家族、医師、看護師、職員と話し合いの場を持ち、方針を確認し、全職員がそれを共有しチームで看取りに取り組んでいます。職員は、内部研修にてターミナルケアを学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームのマニュアルがあり、消防署主催の救命救急講習にも職員が参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を行っており、様々な想定で行っている。夜間連絡訓練も実施している。	年2回、消防署の指導のもと、昼・夜を想定した火災避難訓練を、地域住民も参加し実施しています。近隣のグループホームとは災害時の相互協力体制を構築しています。原子力災害を含めた各種災害マニュアルを整備し、非常時備蓄品も確保しています。職員は救急救命講習を受けています。	想定外の自然災害に備え、ハザードマップなどで事業所の環境を確認し、地震や津波を含む風水害のシミュレーションや訓練の実施、避難場所及び経路の確認と、家族への周知徹底を図るなど、職員の防災意識を高めていく事を期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないような声かけや対応をしている。	トイレでのオムツ交換や声掛けなど、人格や誇りを傷つけない様に、十分配慮しながら支援しています。言葉使いなど不適切なケアが見られた場合は、管理者が都度注意喚起を促しています。名前は、名字に「さん」付けて呼んでいます。家族と相談のうえ、利用者の希望に沿った呼び方をする場合もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図りながら働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者個々の希望やペースに合わせて過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や、その時に応じた身だしなみができるよう配慮しながら、希望に添えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には声かけにてお手伝いを依頼し、見守りしながら行ってもらっている。	昼・夕食の献立は配食業者の栄養士が作成し、食材が届けられます。定期的に嗜好調査を行い、利用者の希望に沿った食事の提供に努めています。パンバイキングや手作りおやつ、外食に誕生会や季節の行事食など、食べる事を大切に考えて企画しています。利用者も出来上がりを楽しみに調理準備を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた適量を提供し、又禁食がある方には代替えを提供している。食事の時間以外でも、状況を見て水分提供し、摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアの声かけをし、必要であれば見守りなどを行っている。うがいには緑茶やマウスウォッシュを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のトイレでの排泄パターンを把握し、声かけや誘導、必要あれば介助を行っている。	ほとんどの利用者は自分の意思で、トイレでの排泄を行っています。職員は、利用者の排泄パターンを把握して、一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行い、排泄支援に取り組んでいます。衛生用品も利用者の状態に合わせて検討しています。利用者の利き手に対応できるよう、トイレにより手すりが左側のものと右側に設置されているものがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操と軽体操を行っている。必要時乳製品の飲用を促したりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日を決めているが、できる限り本人の希望に添えるよう配慮し、体調面等にも気を付けている。	週2回、入浴日が決められています。利用者の希望に合わせて、長湯好きな利用者や、気の合った利用者同士の入浴にも対応しています。入浴を拒む利用者には無理強いせず、様子を見ながら対応しています。入浴剤で温泉気分になり、リラックスできるように支援しています。重度の利用者でも入浴を安全に楽しめるよう、二人介助で支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や体調に合わせて、休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情があり、いつでも確認できるようになっている。また、新しい薬が追加されたときはその効果を把握し、本人の体調面に注視している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力に応じた役割を行ってもらっている。レクは希望に応じて行ったり、個別で行うこともできるよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や外出喫茶の実施、買い物の支援を行い、外出の支援をしている。必要時には家族にも協力してもらっている。	事業所は外出支援に力を入れており、春の小旅行や秋のぶどう狩りで季節を堪能したり、月に1度、外食や喫茶店への外出も、利用者に喜ばれています。近隣の他グループホームに販売車が来る時は、散歩を兼ねて買い物も楽しんでいます。家族の協力のもと、個別外出も取り入れ、閉じこもらない生活を支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には少額のお金を持っていただき、本人の希望で、近くへ買い物に出かけたりできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は自由に入出入りできるようになっており、不快や混乱がないように配慮している。	改造型の事業所で、トイレの数、浴室やリビングの広さや作りがユニットごとに異なります。利用者が集う居間は明るく、清潔を保っています。温・湿度を調整し、利用者と一緒に食事の準備をする音や匂いは家庭的で会話が弾む空間となっています。廊下の壁には利用者の作品の習字や貼り絵の大作が飾られ、ゆっくり鑑賞しながら休めるソファを設置するなど、寛げる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席やリビングで、思い思いに過ごしてもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物の制限はなく、使い慣れたものを持参するよう説明している。	各室には大きめの押入れと洗濯物を干すポールを設置しています。利用者は入居前の暮らしや習慣の継続ができるようタンスやベット、テレビ、冷蔵庫や仏壇などを持ち込んでいます。本人や家族の写真、趣味の作品や書初めなど利用者の好きな物に囲まれて、安らげる居室を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室などに手すりを設置している。個々の能力に応じて居室に物干しを設置し、自分で干してもらっている。		